

# 農作物生産情報

(平成29年11月)

## 気象

(平成29年10月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)  
平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

## りんご

熟度が進んでいます。適期収穫に努めよう！  
盗難防止のため、野積みは注意！

10月21日現在のふじの果実肥大（横径）は、板柳町高増（県生育観測ほ）で9.1cmと平年（8.7cm）より大きい。

ふじ（りんご研究所：黒石市）の熟度は、10月31日現在、平年値と比較して、有袋は、着色指数は高く、糖度及びヨード反応は同程度、硬度及び酸度は低い。

無袋では、糖度及び着色指数は高く、ヨード反応は同程度、硬度及び酸度は低い。蜜入りは平年と同程度である。

総合的にみて、ふじの熟度は平年より進んでいると見込まれる。

### 1 晩生種の収穫

#### (1) 収穫時期

晩生種は王林、有袋ふじとも収穫期に入っている。無袋ふじは11月1日頃からである。

#### (2) 適期収穫

収穫が遅れると、ふじでは内部褐変やつる割れが多くなることが心配されるので、適期収穫に努める。

#### (3) 果実疫病防止対策

##### ア 収穫直前まで

反射シートを片づける際には土を飛散させないようにし、りんご樹にかけて干さない。収穫用のかごや箱の土は、あらかじめ洗い落としておく。

##### イ 収穫時

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。特に、はしごを移動する際、手に泥が付きやすいため、はしごを動かした後は十分注意する。

落果や収穫の際に落とした果実は、収穫果に混入しない。

##### ウ 収穫後

収穫果は、できるだけ野積みはしない。

## 2 モモシンクイガ対策

収穫した果実は、山選果の際に、モモシンクイガ被害果を流通させないために徹底して選別する。

## 3 黒星病対策

被害落葉は伝染源となるので、病原菌の密度を下げるため、落葉をかき集めて適正に処分、または土中にすき込むなど耕種的防除対策を積極的に行う。

## 4 腐らん病対策

収穫後の薬剤散布は採果痕などからの感染を防止する効果が高いので、腐らん病の発生が多い園地では、ふじの収穫後できるだけ早めにトップジンM水和剤1,000倍、ベフラン液剤25 1,000倍のいずれかを特別散布する。

## 5 収穫後の園地管理

### (1) 苗木の植付け、補植

植穴には、堆肥、苦土炭カル等の土壌改良資材を施用する。

### (2) 酸性土壌の改良

酸性土壌の園地では、苦土を含む石灰質肥料を施用後、下層への浸透を図るため、5 cm程度の深さで軽く耕うんする。長年、耕うんしていない園地では、断根による悪影響を避けるため、晩秋に実施する。

### (3) 雪害防止対策

根雪前に、雪害を受けそうな枝への支柱入れや不要な枝の剪去、幼木の枝の結束などを行う。

### (4) 野ネズミ対策

ア 園地を清掃し、餌となる果実や作物の残さなどは片づける。

イ 草生、敷草等を行っている場合は積雪前に幹の周辺を清耕にしておく。

ウ 特に被害を受けやすい苗木及び若木には地上1 m位の高さまで（積雪の多いところではさらに上まで）樹幹に金網や合成樹脂のプロテクターなどの被覆資材を巻きつける。

エ 殺そ剤による駆除は毒餌を食べた場合にのみ効果があるので、食いつきが悪い場合は、殺そ剤を含まない餌を与えて2～3日喫食させた後に毒餌をおく。なお、殺そ剤や忌避剤を利用する際には、使用基準を遵守する。

## 農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に 十分気をつけましょう

- ・ 使用した農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- ・ 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
- ・ 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

# ぶどう

貯蔵中の品質管理を徹底しよう！

## 1 スチューベンの貯蔵

- (1) 腐敗は灰色かび病菌による場合が多く、これを防ぐため貯蔵温度を0℃付近に保持するとともに、貯蔵中でも被害果は取り除く。
- (2) 被害果を取り除く目安は、穂軸、果軸の萎縮や褐変が軽く見え始め、1果当たり1～2粒が脱粒し始めた頃である。

## 2 剪定

- (1) 剪定は、落葉後早めに行う。
- (2) 架線の巻ひげや枯死枝は、晩腐病や黒とう病の越冬源となるので必ず除去し処分する。

## 3 収穫後の園地管理

収穫後は園地を清掃するとともに、酸性土壌の改良や野ネズミ被害の防止、雪害の防止等の対策を行う。  
特に、べと病や晩腐病などが発生した園地では、被害葉・新梢などが翌年以降の伝染源となるため、丁寧に取り除き、適正に処分する。

# おうとう、もも、うめ、あんず

休眠期のコスカシバ対策を徹底しよう！

## 1 コスカシバ対策

被害が見られる園地では、落葉後から萌芽期までに、以下の薬剤を選択し、樹幹部と地際部に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

薬剤 \ 樹種	おうとう	もも	うめ	あんず
ガットキラー乳剤 100倍	○	○	○	○
ラビキラー乳剤 200倍	○	○	○	—

## 2 収穫後の園地管理

収穫後は園地を清掃するとともに、酸性土壌の改良や野ネズミ被害の防止、雪害の防止等の対策を行う。

## 野菜

こまめな温度管理により生育量の確保に努めよう！

### 1 アスパラ菜（オータムポエム）

#### (1) 栽培管理

ア 摘心が遅れると、側枝の発生が遅れたり、細くなるので、主茎が5～10cmくらいになったら、大きい葉5～6枚を残し早めに摘心する。

イ 日中は20℃前後で管理する。

ウ 内張（2重カーテン）やトンネルなどで保温し、最低気温が5℃以下にならないようにする。

#### (2) 収穫・調製

ア 花が1～2花咲いた側枝を25cm以上の長さで収穫する。

イ 収穫した側枝は、頂花をそろえて25cmの長さに茎元を切りそろえる。

### 2 ほうれんそう・こまつな

#### (1) 栽培管理

ア 하우스内に内張などを設置して保温する。

イ 株が混んでいる場合は、発芽が揃った頃と本葉2枚の頃の2回程度、間引きを行う。

ウ 基本的に追肥やかん水は必要ないが、土壌が乾きすぎたり、生育が劣るような場合には暖かい日を選んで行う。

エ ほうれんそうにケナガコナダニの発生が見られるほ場では、以下の薬剤を散布する。

薬剤名	使用倍数	使用時期	使用回数	備考
アフーム乳剤	2,000倍	収穫3日前	2回以内	
コテツフロアブル	4,000倍	2葉期まで (但し収穫14日前まで)	1回	薬害に注意

#### (2) 収穫・調製

25cm前後で収穫し、根を切りそろえる。

日本一健康な土づくり運動展開中

稲わらは焼かずに有効活用しましょう！！

## 大豆

収穫は適正水分で行おう！

### 1 収穫

- (1) 収穫は、完全に落葉し、莢が褐色に変化し、莢内で子実がカラカラ音がする頃が目安である。
- (2) 刈取時の水分
  - ア 子実水分20%以下（豆に爪を立てると少し跡が残る程度）
  - イ 茎水分50%以下（茎を爪でこすっても表皮が剥けない程度、手でポキッと折れる）
- (3) コンバイン収穫時、土かみによる汚損粒が発生しないよう注意する。
- (4) 降雨後は、茎や莢が十分乾燥したことを確認してから作業を行う。

### 2 乾燥・調製

- (1) 子実水分は15%以下にする。
- (2) 紫斑病、褐斑病、マメシンクイガの被害粒を除去する。

## 小麦

適正な管理で、越冬前の生育量を確保しよう！

### 1 湿害対策

ほ場の排水対策を徹底し、湿害を防ぐ。

### 2 雪腐病防除

- (1) 11月中旬（根雪約4週間前）から根雪直前の期間に薬剤を1回散布する。
- (2) 薬剤散布後、速やかに薬液が乾くような条件で防除する。
- (3) 水和剤や液剤を使用する場合、薬液に必ず展着剤を添加する。

### 3 麦踏み

- (1) 早播きや高温などにより、丈が伸びすぎた場合や霜柱による凍霜害の恐れがある場合には、トラクタの車輪又はローラ等で踏圧作業を行う。
- (2) 時期は、10月下旬～11月中旬あるいは茎立ち前の3月下旬～4月上旬とする。
- (3) 多湿ほ場では、湿害が助長されるので行わない。

**災害による経営のリスクを軽減するため  
農業共済に加入しましょう！**

**また、平成30年度から始まる収入保険制度への加入に向けて  
青色申告申請の検討・準備をしましょう！**

